



守山市 発達支援センターだより

令和7年度 9月号

令和7年9月1日発行
守山市発達支援センター（発達支援課）
守山市下之郷3丁目2番5号 すこやかセンター内
Tel: 077-582-1158 Fax: 077-581-1628



まだまだ暑い日が続いていますが、街中にはトンボが飛びはじめ、少しずつ秋が近づいてきています。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。さて、今号の発達支援センターだよりでは、『“障害”について考えてみよう』と『子どもの行動を理解するための考え方～応用行動分析～』をご紹介します。

“障害”について考えてみよう

❖“障害”とは？

今回は、普段聞きなれた言葉かもしれませんが“障害”についてのお話です。“障害”という言葉から、皆さんはどのようなことを思い浮かべるでしょうか。現在、国際的に“障害”という概念は、“その人を取り巻く環境との相互作用の中で生まれるもの”という捉え方に考え方が転換されています。例えば、次のような状況を思い浮かべてみてください。



ここにあなたを含めて数人の人が集まって、楽しくコミュニケーションをとっています。

あなた以外の人は、聞こえる音の大きさが限られていて、

そして、あなた以外の人は全員手話が使えて、

手話だけでやり取りができています。あなたは手話ができません。

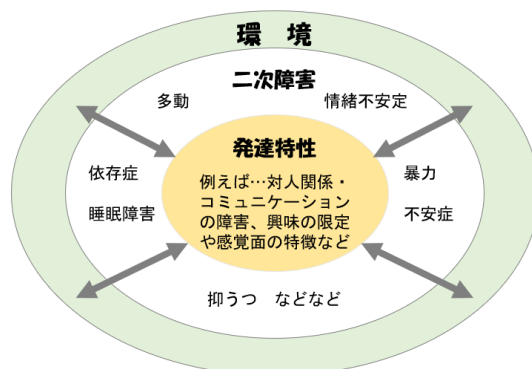
さて、この場合、コミュニケーションについての“障害”は誰にどのように起こっているのでしょうか？この状況から、あなたが手話について教えてもらって、いくらかの手話ができるようになったり、あるいは手話を翻訳できる“通訳”の方に仲介してもらったりすると“障害”はどうなるのでしょうか？（もしかすると、あなたができるコミュニケーション手段を周りに知ってほしいという思いが出てくるかもしれません）

このように“障害”ということについて“環境との相互作用”という視点を持つと、例えば、自閉スペクトラム症の方によく見られるこだわりや感覚の過敏さなどは、同じパターンの作業をコツコツ繰り返すことや、微細な変化に気づくことが求められるような環境では“長所”になるかもしれません。あるいは、ADHDの方によく見られるすぐに行動に移す衝動性などは、新しいことに興味を抱き、前例のないことに挑戦するような環境では、これもまた“長所”となるかもしれません。



❖“二次障害”について

発達障害について考えるうえでよく使われる言葉として“二次障害”という言葉があります。例えば、雰囲気や状況をうまく捉えることができづらい→人間関係がうまくいかない・叱責されることが頻発する→人と関わる場面に強く不安を感じる・避ける、気分が慢性的に落ち込む…というように、元々の発達特性を背景として、“二次的”に派生するものです。こうした二次的な“障害”についても、その人を取り巻く環境（例えば、その人の発達特性や関わり方などの共通理解等）によって、予防できることもあるでしょう。



❖“障害”は変化していくもの

例えば、発達障害の発達特性など、変わりづらいものはあります。しかし、その人が原因で“障害”が起こるのではなく、その人を取り巻く環境との相互作用の中で“障害”が起こっているのであれば、環境（そこには、合理的配慮・ユニバーサルデザイン・基礎的環境整備といったことも入るでしょう）を変えることで、その人や周囲の人にとっての困り感、生きやすさ、生活の質の変化につながっていくことになります。

“障害”についてのこのような視点、みなさんはどう思われますか。

【参考文献・資料等】

外務省 HP より『障害者権利条約 前文(e)』／ 厚生労働省 HP より『国際生活機能分類 ICF』

『2E 得意なこと苦手なことが極端なきみへ ～発達障害・その才能の見つけ方、活かし方～』 高山恵子・著（合同出版）

子どもの行動を理解するための考え方～応用行動分析～

日々、子どもと関わっていると、繰り返し起こるさまざまな『行動』に頭を悩ませることがあると思います。今回は『行動』に注目して、子どもへの関わり方や支援を考えてみましょう。

❖『行動』の観察ポイント

子ども達のさまざまな『行動』を観察する時には、できるだけ具体的にしていけることが大切です。
「〇〇しない」ではなく、「〇〇した」と表現できると具体的にになります。

『行動』とは…
見える、聞こえる、数えられる



抽象的

- 朝、調子良かった
- いい子にしていた
- 言うことを聞かなかった
- 弟に優しくできた

具体的

- 朝、相手に聞こえる声であいさつできた
- 物を借りるときに「貸して」と言った
- 「テレビをおしまいにしなさい」と言ってもテレビを見続けた
- 弟にゲームの順番を2回替わった

❖行動を3分割して考えてみよう

『行動』の前後には必ず『きっかけ』と『結果』があります。



左のイラストでは

『きっかけ』…“喉が渴いている時”“自動販売機が視界に入った時”

『行動』 ……“自動販売機にお金を入れる”“ボタンを押す”

『結果』 ……“水が手に入る”“喉が潤う”

といった具合で、3分割にして考えることができます。

この3分割の視点を活用して、子どもの行動を捉えてみると、支援の糸口が見つかるかもしれません。

❖“友達の遊びを邪魔する”Aちゃん

Aちゃんは、絵を描くことが苦手です。部屋でお絵描きの活動が始まると、Aちゃんは席を立ち、友達のそばに行きます。はじめは友達の絵を眺めていますが、しばらくすると友達の身体に触れたり、友達の描いている紙に落書きしたりと邪魔をし始めます。すると、先生がAちゃんに声をかけにやってきます。先生としばらく話してから、最終的には違う玩具や教材を出してもらい、お絵描きとは別の活動をして過ごしていることが多いようです。



このAちゃんの行動を3分割の視点を使って整理してみましょう。

きっかけ

- お絵描きの活動が始まった時
- 友達が視界に入った時

行動

- 友達のそばに行く
- 友達の身体に触れる
- 落書きをする

結果

- 先生がやってくる（注目が向けられる）
- 好きな玩具などで遊べる
- 苦手なお絵描きをしなくてよくなる

行動の前後について記録すると、Aちゃんが繰り返している行動の理由や、行動が起きやすい場面を検討しやすくなります。

Aちゃんの場合は、次のような環境づくりや関わりによって、繰り返している行動が変わってくるかもしれません。

きっかけ

- お絵描きの難易度（使う素材やテーマなど）を変える
- 好きな要素を活動に取り入れる
- 席を先生のすぐそばにする 等

結果

- （取り組めている時に）褒められる
- （お絵描きの難易度や要素が変わっていれば）好きな活動に取り組める
- 先生とお絵描きにまつわる話ができる 等

今回は、行動の観察ポイントと、行動の前後に注目する3分割の視点をご紹介しました。繰り返している行動（不適切な行動）を減らし、ほかの行動（望ましい行動）を増やすための環境づくりや関わりを考える際に、この視点も活用してみてくださいね。